

概要版

第一中学校と第二中学校の

発展的な統合

～特色・魅力・活力ある学校づくりに向けて～



第一中学校・第二中学校
「統合計画（素案）」

令和元年6月26日

津久見市教育委員会

はじめに

○津久見市の中学校入学生徒数

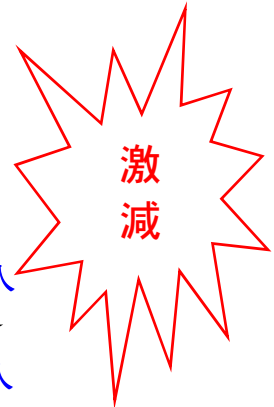
昭和27（1952）年→→→ 1153人（中学校数 7校）

※S26市制施行時

平成31（2019）年→→→ 112人（中学校数 2校）

各校の最大人数は 第一中学校 359人 第二中学校 481人

平成 31年度は 73人 39人



近年においては、出生時から中学校入学時までに、毎年10人前後の児童が減少しているのが実情です。

○このような中、津久見市教育委員会は・・・

平成17（2005）年3月30日

「津久見市立小中学校適正規模、適正配置についての基本方針」決定



○文部科学省は・・・

平成27（2015）年1月27日付け

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」

地域の実情に応じて各市町村において教育的な視点から少子化に対応した活力ある学校づくりの方策を検討・実施すること

○第一中学校と第二中学校については・・・

平成29（2017）年6月30日

「第一中学校・第二中学校統合検討委員会」設置

平成31（2019）年1月23日

第一中学校・第二中学校統合に関わる「報告書」を教育長へ提出



教育委員会では、この「報告書」の内容を踏まえ、「中学校統合計画（素案）」をとりまとめました。この「中学校統合計画（素案）」について、多くの方々からのご意見をお聴かせいただきますようお願いいたします。なお、各地域での説明会等においては、「真に子どものための学校づくりはいかにあるべきか」を中心に据えた協議をお願いいたします。

【中学校統合検討委員会から今後の計画】



中学校統合検討委員会

中学校統合検討委員会から教育長に「報告書」を提出

教育委員会で審議

○教育委員会で月1回程度の審議を重ねる

「中学校統合計画(素案)」

○開校時期、開校場所、新設中学校の基本構想等

パブリックコメント 地域別説明会(小学校区等)

○広く市民からの意見募集

○小学校区ごとの他、求めに応じて「どこでも・何度でも」説明会を実施

教育委員会で審議

○パブリックコメント、地域別説明会の集約・検討

「中学校統合計画」決定

○最終的に「中学校統合計画」を決定

新設中学校開校推進協議会(仮称)設置

○関係機関・団体・組織代表・地域代表等

○校舎建設(増改築)、施設整備等

○学校名、校旗、校歌、校章、制服、通学等に関する事



新設中学校開校準備室(仮称)設置

○開校1年前、教育委員会内に設置

○教育委員会職員を配置、新設中学校の広報・内容の周知

○教育課程、学級編成、日課表、閉校式・開校式、関係法規・規則等の整備

新設中学校 開校

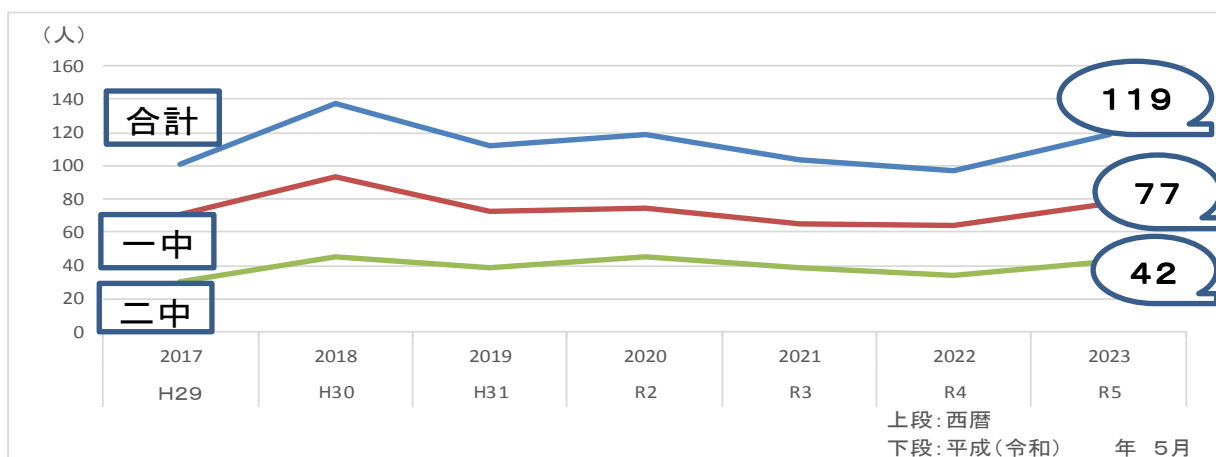
市長部局と事務局との協議

I 中学校統合の背景

入学生徒数の推移

年度 (平・令) (西暦)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
合計(人)	101	138	112	119	104	97	119
第一中学校	71	93	73	74	65	64	77
第二中学校	30	45	39	45	39	34	42

2019(平成31)年4月現在



学級数の推移

第一中学校					第二中学校				統合後の状況			
学年 年度	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
	H30 2018	3(4)	2	3	8(9)	2	1	2	5	4(5)	3	4
H31 2019	2(3)	3	2	7(8)	1	2	1	4	4(5)	4	3	11(12)
R2 2020	2(3)	2	3	7(8)	2	1	2	5	3(4)	4	4	11(12)
R3 2021	2(3)	2	2	6(7)	1	2	1	4	3(4)	3	4	10(11)
R4 2022	2(3)	2	2	6(7)	1	1	2	4	3(4)	3	3	9(10)
R5 2023	2(3)	2	2	6(7)	2	1	1	4	4(5)	3	3	10(11)

※1) 特別支援学級は除く。

※2) ()内の数字は、大分県30人学級措置(中1のみ)による。

学級数による職員配置人数

【平成31（2019）年度】

	学級	定員(人)	校長	教員	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語
一中	7	13	1	12	2	2	1.5	2	0.5	0.5	1.5	0.5	0.5	2
二中	4	9	1	8	1	1	1	1	0.5	0.5	1	0.5	0.5	1

※1) 第二中学校では、すべての教科が1名以下の教員配置。



統合後	11	19	1	18	2.5	2.5	2.5	2.5	1	1	2	0.5	0.5	3
-----	----	----	---	----	-----	-----	-----	-----	---	---	---	-----	-----	---

※2) 統合後は、国語・数学・英語等の教科は複数教員配置。

【令和5（2023）年度】

	学級	定員(人)	校長	教員	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語
一中	6	11	1	10	1.5	1.5	1.5	1.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	1.5

※1) 第一中学校では、国語・数学・英語等の教科は複数教員配置に届かない。

二中	4	9	1	8	1	1	1	1	0.5	0.5	1	0.5	0.5	1
----	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	-----	---	-----	-----	---

※2) 第二中学校では、すべての教科が1名以下の教員配置。



統合後	10	18	1	17	2.5	2.5	2.5	2.5	1	1	2	0.5	0.5	2.5
-----	----	----	---	----	-----	-----	-----	-----	---	---	---	-----	-----	-----

※3) 統合後は、国語・数学・英語等の教科は複数教員配置。

部活動の状況

令和元(2019)年 5月

部	学年	第一中学校					第二中学校				
		1	2	計	3	合計	1	2	計	3	合計
軟式野球	男子	3	9	12	12	24	2	5	7	4	11
	女子	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1
サッカー	男子	4	3	7	5	12					
ソフトテニス	男子	5	9	14	5	19					
	女子	4	1	5	3	8	1	6	7	3	10
陸上競技	男子	12	11	23	5	28	1	4	5	0	5
	女子	8	5	13	3	16	0	5	5	6	11
バスケットボール	男子	4	6	10	6	16	6	7	13	3	16
	女子	6	0	6	4	10	4	1	5	0	5
バレーボール	女子	8	4	12	2	14	6	4	10	3	13
卓球	男子	1	5	6	4	10					
	女子	0	5	5	3	8					
剣道	男子	0	0	0	2	2					
	女子	7	0	7	0	7					
美術	男子	1	0	1	2	3	1	0	1	2	3
	女子	1	4	5	3	8	1	0	1	1	2
吹奏楽	男子	0	1	1	0	1	2	0	2	0	2
	女子	4	17	21	4	25	6	3	9	0	9
無所属	男子	1	3	4	2	6	5	6	11	5	16
	女子	0	2	2	4	6	1	1	2	1	3

※このほか、水泳・バドミントン・体操・柔道など、社会体育として活動中。

II 中学校統合の基本的な考え方

1. なぜ適正規模なのか？

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では、一定の集団規模が確保されることが望ましいという考え。

中学校では 1学年 4学級～6学級の規模

(公立小学校・中学校の適正規模、適正配置等に関する手引き 平成27年文部科学省)

【適正規模の学校が必要な理由】

- 小学校と異なり、中学校では高校入試を控え、厳しい現実の社会が目前です。社会性・自主性・協調性等を育むためには、多くの個性的な生徒と出会い、日々の学校生活の中で、お互いに切磋琢磨する環境が大切です。
- 進学などの進路希望に適切に対応するには、教科の専門性を確保することが大切です。そのため、国語、数学、理科、社会、英語などの専門の教員を複数配置することで、教科の専門性がより高められ、充実した指導が受けられます。さらに、多くの先生との出会いも重要な環境づくりです。
- 自分の興味・関心に応じて、多くの部活動の中からやりたい種目を選択できることも、個々の願いを尊重するためには重要なことです。

2. 統合の考え方

【基本的な考え方】

- ①教育の機会均等を踏まえた教育環境の整備を行います。
- ②教育水準の維持向上を図ります。
- ③津久見という地域の特性を活かした学校づくりを進め、地域とともに学校の活性化を図ります。

3. 統合の方法

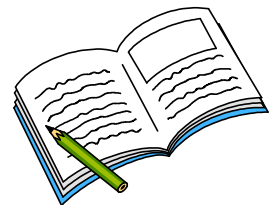
統合については、下図のように、第一中学校と第二中学校の伝統や特色を活かしつつ、まったく新しい学校を設置する「発展的統合」とします。

第一中学校

第二中学校

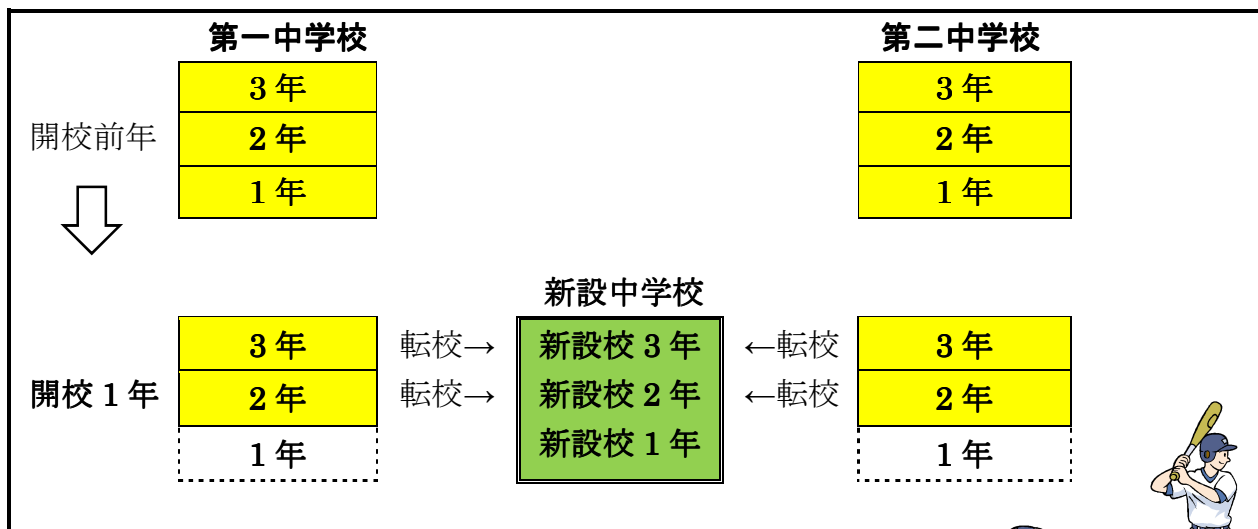
統合 →

新設中学校



4. 統合の手順

統合方式



①新設中学校開校1年目（初年度）に**新1年生が入学**する。

同時に、第一中学校と第二中学校の**新2・3年生は、新設中学校に「転校」**する。

②統合に伴う課題については、新設中学校開校推進協議会（仮称）を設置して、十分協議する。

津久見市の場合は・・・？

Q. どうして一中と二中が統合するの？	A. 2校の生徒数が少なくなったからです。
Q. 少なくなると、何が困るの？	A. 生徒数が減少すると学級数が少なくなります。学級数が少なくなると教員が少なくなることです。
Q. 統合するメリットは？	A. 生徒の教育環境を整備することで、津久見の生徒が他の地域の生徒と学ぶ環境に差がでないようにすることです。具体的には・・・ ①たくさんの個性的な友だちと出会い、切磋琢磨しながら活動することができます。 ②各教科で複数教員が配置され、専門性の確保と、充実した指導が受けられます。 ③部活動についても、多くの種目の中から、自分の興味関心に応じて選択することができます。
Q. 統合の方法は？	A. 小規模校が大規模校に吸収合併されるのではなく、2校が一緒になって、一中でもなく二中でもない新しい中学校にする方法です。それを「発展的統合」と考えます。
Q. 統合して困ることはないの？	A. すでに統合している学校の様子を視察しましたが、一番の課題は登下校だそうです。津久見市では現在でも登下校にバスやタクシーを利用しています。

Ⅲ 特色・魅力・活力ある学校づくりのために (先進地の事例等を参考)

1 学校機能の充実

(1) 学習指導環境 (例)

- 図書館とパソコン室を併設し、**メディアセンター**として活用する。
- 少人数指導教室**を多く設置し、個に応じたきめ細かい指導ができるようにする。
- 各特別教室に、準備室を併設する。・・・etc.

(2) 生徒指導・進路指導の環境 (例)

- パンフレットやプリントなどが配布できるケースを設置し、自由に利用できるようにする。
- 職員室前にロビー**を設置し、各中学校の歩みなどが展示できるようにする。
- 個別に面談を行える部屋や、情緒の安定を図る部屋を設置する。・・・etc.

(3) 学級経営・学校運営環境 (例)

- トイレは、**男子用もすべて個室洋式**にする。
- 広く長い廊下に**多目的スペース**や**オープンスペース**を設置し、交流や自習に活用する。
- 校舎内の防音機能を維持するとともに、校内外の放送設備を充実させる。・・・etc.

2 防災機能の充実

(1) 児童・生徒の安全確保 (例)

- 各セクションで仕切れるような**防御扉**を設置する。
- 防犯のために、各教室に非常時連絡システム（非常ボタン等）を設置する。
- 出入り口を中心に、**防犯カメラ**を設置する。・・・etc.



(2) 地域住民の避難場所 (例)

- ランチルームを調理室に隣接させ、**避難時**にも食事を提供できるようにする。
- 広いスペースを仕切ることのできる**パーティション**を準備する。・・・etc.

(3) 防災拠点 (例)

- 校内に**防災備蓄倉庫**を設置する。
- 防災無線の基盤装置を設置し、**情報拠点**とする。
- 洪水・津波**に備え、1階には防水壁を設置できるようにする。・・・etc.

3 地域コミュニティの場

(1) 学校と地域の連携 (例)

- 交流スペースは出入り口を増やし、各セクションで**独立**して活用する。
- 学校訪問する方と気軽にコミュニケーションをとるための**応接室**を玄関近くに設置する。
- 学校行事や各種イベントに備え、**駐車場**を広く確保する。・・・etc.

(2) 小・中・高との連携 (例)

- 小学校や高校との連携を図れるよう、**交流スペース**を設置する。
- 津久見小学校・津久見高校・教育委員会とを**インターネット回線**や**内線**で結ぶ。
- 津久見高校**との生徒同士の交流や、教職員同士の交流を実施する。・・・etc.

(3) 福祉・健康・文化活動 (例)

- 各展示物には、**点字**による解説を加える。
- 車いすやストレッチャーを常時準備しておく。・・・etc.



4 統合計画

開校場所は、現在の第一中学校の校地とする。

<理由>

- 敷地面積が広い。
- 共同調理場が隣接している。
- 平成24（2012）年10月完成の体育館をそのまま利用できる。
- 近くに津久見小学校・津久見高校・市民図書館・教育委員会があり、連携しやすい。
- 大型バスの乗り入れも容易である。

開校は、令和5年（2023年）4月1日を目標とする。

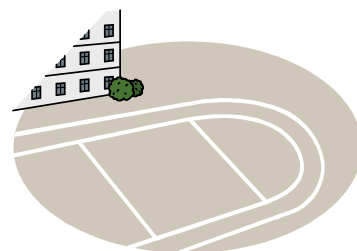
<理由>

- なるべく早く教育環境を整備するため、財源措置が可能な限り早期に開校したい。
- 令和元年度中に開校時期を示すことにより、統合に関係する生徒が特定され、早期から準備できる。（現小学校3年生が新1年生として入学、現4・5年生は、新2・3年生として転校となる。）
- 国への補助金申請や建築設計・工事期間等を総合的に勘案すれば、令和5年4月の開校が適切な時期である。

既存の校舎を活用し、新しく必要な施設については増改築する。

<理由>

- 新築するよりも、工事期間が短い。
- 耐震工事が終了している校舎を可能な限り活用できる。
- 現存する体育館や共同調理場との連絡通路が利用できる。
- 工事手順の工夫により、仮設校舎への移動期間が短い。



現第二中学校の校地は、老朽化している公民館などの公共施設として利用するとともに、防災施設の拠点として活用できるようにする。

<理由>

- 平成27（2015）年11月に改築工事を終えた新校舎は今後も十分に活用できる。
- 体育館やグラウンド、テニスコートが併設され、生涯スポーツ施設として活用できる。
- 市民が集う場所として地域コミュニティの場として活用できる。

5 先進地視察のまとめ

(1) 九重町立このえ緑陽中学校(H30. 9. 12)

開校時期	平成25年 4月 1日
統合前	東飯田中学校, 野上中学校, 飯田中学校, 南山田中学校 (4校)
生徒数 (H25. 4)	1学年77人3学級, 2学年82人3学級, 3学年64人2学級, 支援学級3人1学級 合計223人9学級
経緯	平成17年 九重町学校再編検討委員会設置 平成22年 統合中学校建設推進協議会設置 平成25年 このえ緑陽中学校 開校
統合による効果	○多人数となり学校行事がしっかり行われる。 ○生徒の態度や学力面でも非常によい状況。 ○先生も増え、生徒指導が行き届き、不登校やいじめの件数はきわめて減った。 ○生徒数が増えたことで、良い意味での競争力が芽生えている。 ○部活動の種類が増え(13部)、生徒の選択肢が増えた。 ○小学校5・6年生は、新設中学校で集合学習ができるようになり、中1ギャップの解消につながっている。 ○バス通学のため、時間の観念が養われ、生活リズムも安定した。
課題	○スクールバスの運行調整・停留所の整備など。
生徒の反応と変化	○友だちも増え、ほとんどの生徒は喜んでいる。 ○開校7月のアンケートでは85%の生徒が「統合してよかった」と回答した。 ○部活動の種類も増えて、多くの中から選べるので喜んでいる。
保護者の反応と変化	○統合直後は問い合わせが頻発したが、生徒の運動面・学力面・その他の活動で統合の成果が現れ始め、批判は減った。 (H26. 4以降統合に関する苦情はなし。) ○スクールバスでの登下校は、朝、自家用車で学校まで送る必要がないこと、決まった時刻に帰宅することから安心という声が多い。
跡地利用	○廃校になったすべての中学校は、社会教育施設として利用している。

(2) 玖珠町立くす星翔中学校(玖珠町教育委員会新中学校開校推進室)(H30. 9. 12)

開校時期	平成31年 4月 1日
統合前 (H30. 4)	森中111人, 日出生中10人, 玖珠中154人, 山浦中休校, 北山田中55人, 八幡中18人, 古後中9人 (7校)
生徒数 (H31. 4)	1年生112人4学級, 2年生127人4学級, 3年生122人4学級, 合計362人12学級
経緯	平成 6年 中学校再編事業 開始 平成13年 中学校再編事業 凍結(生徒数、市町村合併、地域の反対などのため) 平成22年 中学校再編事業 凍結解除(生徒数減少、近隣の状況などから) 平成27年 町長が整備方針を発表 平成31年 開校
跡地利用等	○新中学校の校舎は、旧大分県立森高校の跡地、及び校舎に大規模改修を実施して活用する。 ○各中学校の跡地は社会体育への貸出を行う予定。特にプールなど。
課題	○スクールバスの運行計画・活用上の注意点など。

津久見市教育委員会 学校教育課

TEL 0972-82-9526

FAX 0972-82-9300

E-mail tsu-kyougaku@city.tsukumi.lg.jp